

笑顔かがやく光っ子

みんなで育てる光っ子

学校便り

第357号
平成28年6月1日

練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木 隆志

バラが咲いた

校長 鈴木 隆志

先月、光が丘5丁目にある四季の香公園内に「四季の香ローズガーデン」が開園しました。1300㎡のバラの庭に、180品種、200株のバラが植えられています。隣接のバラ園（770㎡、40品種、400株）とともに、バラの花と香りを楽しむことができるすてきな庭園です。

光八小の校庭にも、バラの花が咲いています。真っ赤なバラとピンクのバラです。バラの花には、2万種以上の品種があります。ローズガーデンの方に調べていただいたところ、校庭のバラは、赤は品種を特定できませんでしたが、ピンクは「クイーン・エリザベス」という名前だと分かりました。

真っ赤なバラが咲くと、マイク眞木さんの『バラが咲いた』の歌を思い起こします。作詞・作曲の浜口庫之助さんは、『星の王子さま』に登場するバラをモチーフに、この歌を作ったのだそうです。

校長室でも黄色い大輪のバラが花を咲かせました。このバラの花にも、ある名前がついています。このバラを作ったのは、フランス人のフランシス・メイアンという人です。1935年から作り始め8年の歳月をかけ1942年によりやく完成させました。1942年と言えば第二次世界大戦のまっただ中です。戦渦の中、メイアンは完成させたバラの苗木を三つの小包にしてバラの愛好家の仲間へ送ります。一つはアメリカに、あとの二つはフランスの敵国だったドイツとイタリアに送りました。バラを愛する人たちには敵も味方もなかったのでしょうか。戦争が激しくなる中でも、送られたバラの苗木は、それぞれの国で見事に生き延びていったのです。

1945年、第二次世界大戦はようやく終わりを迎えます。そしてこのバラに、世界の平和を願って、「ピース」という名前をつけたのです。このバラの花は、「ピース（平和）」という名前なのです。翌年に開催された第1回国際連合の総会では、参加した各国代表に、世界平和のシンボルとしてこの「ピース」の花が贈られました。「ピース」は、当時から大変美しい花として人々を喜ばせました。「栄光の殿堂入りのバラ」第1号は、「ピース」です。そして、「ピース」を親にして、たくさんの品種が生み出されました。70年以上経った今でも、「ピース」の思いは受け継がれているのです。前述の四季の香ローズガーデンにも、「ピース」の花が誇らしげに咲いていました。

世界に目を向けると、戦争や紛争で不幸な思いをしている国や地域がたくさんあります。今、この瞬間にも、命を奪われてしまう人々がいるのでしょうか。日本もかつては戦争をしていましたが、二度と戦争はしないと誓ってから、70年が経ちました。これから先の未来も、日本だけでなく世界中が、ずっと戦争をしないで平和を守り抜いてほしいと願っています。

4年後の2020年には、東京オリンピック・パラリンピック大会が催されます。オリンピック・パラリンピックは平和の祭典です。世界中の人々と共に生きる世の中、共に創る世の中となるよう、そして、オリンピック・パラリンピックが、世界の平和と発展につながるよう、祈ってやみません。そんな思いを込めて、私も校長室で5鉢の「ピース」を育てています。植木鉢には、オリンピックシンボルの五輪と同じに、青・黄・黒・緑・赤の色を付けています。

星の王子さまにとって、1本のバラが特別なバラであったように、光八小のバラは、光っ子たちの特別なバラです。光八小が、いつまでも散らない心のバラとなるよう、思いを寄せていきます。